

## 『境界研究』執筆要領

1. 投稿は随時受け付ける。但し、投稿プランについては事前に相談されるのが望ましい。
2. 原稿には、論文、研究ノート、資料、書評論文、書評などの区別を記す。
3. 原稿の量は、投稿規程で定められた枚数を厳守する。なお、次項で指定する書式のA4用紙1頁が、400字詰め原稿用紙3枚分に相当する。図表、地図などのスペースは適宜換算する。
4. 原稿はパソコンで作成する（図は手書きでもよい）。書式は横書きで1頁当たり40字×30行とし、脚注には本文より1.5ポイント程度小さい文字を使う。A4用紙にプリントアウトした原稿を郵便等で、電子ファイルをEメールで提出する。提出の際、使用ソフト（Microsoft Wordが望ましい）名と連絡先（Eメール、住所、電話、ファクス。海外滞在の予定がある場合はその間の連絡方法）を編集部伝えること。
5. 原稿の1枚目には、表題・執筆者氏名・所属機関・職名、および上記それぞれの英訳を記す。所属機関に正式の英語名称がある場合にはそれに従うこと。英語表題は邦題の「直訳」ではなく、英語として通用する題とする。2枚目には、邦題のみを記し、1行空けて本文を始める（執筆者名等は記さない）。
6. 節には、序論部分と結論部分を除き、1、2、3...と番号をふり、タイトルを付ける。序論と結論の名称（「はじめに」「序論」「おわりに」「結論」等）の選択は、執筆者と編集部の協議による。
7. 注は脚注形式とする。注番号は頁や節ごとにふるのではなく、通し番号とする。また、巻末に文献一覧を掲げて本文や注の中で文献データを略記する（[執筆者姓 出版年：頁]のように）方法はとらず、初出の注に文献のフルデータを記す。その他、「スラブ・ユーラシア研究センター和文出版物の引用注の様式」を遵守すること。
8. ラテン文字以外の文字を使用する言語を本文・注に表記する場合、可能ならば、ラテン文字に翻字する。ラテン文字言語を翻字する場合は、できる限り標準的な方式を用いるものとする。
9. 論文、研究ノートには、英語で要旨を付す。これ以外に外国語要旨を添付するか否かは、編集部の判断による。
10. 論文の採否は、編集委員会の委嘱するレフェリー（査読者。原則として2名）の講評に基づいて編集委員会が決定する。ただし、明らかに問題が多いと編集委員会が判断した場合は、レフェリー審査に回す以前の段階で却下することがある。研究ノート、資料、書評論文などの審査も、原則としてこの手続きに倣う。書評は、編集委員会の判断で採否を決定することができる。
11. 執筆者は、レフェリーによる講評および編集委員会の指示に基づいて原稿を修正・推敲し、最終稿とする。審査結果が条件付きであった場合は、修正稿の掲載可否を編集委員会が改めて判断する。

12. 執筆者は、初校段階で必要最小限の修正を行う。再校・三校は原則として編集部が行う。
13. 技術的な問題（注様式の統一など）に関しては、編集者の判断で原稿を修正する場合がある。

『境界研究』編集部

TEL: (011) 706-2388

FAX: (011) 706-4952

E-mail: iwasi@slav.hokudai.ac.jp